

三関、須川の食材 ピザに

湯沢南中生と住民考案 両地区、夏祭りで提供へ



試作したパプリカやオクラ、ミニトマトなどの具材がのった夏野菜ピザ



ピザの試作に取り組む家庭部の生徒たち

湯沢市三関地区と須川地区の地域住民でつくる任意団体「環東鳥海山活性化プロジェクト」が、湯沢南中学校の家庭部と連携し、地元産の食材を使ったピザ作りに取り組んだ。両地区で 8 月に開催する夏祭りでそれぞれ提供し、地元の石材店と協力して製作した石窯で焼き上げる計画だ。

同プロジェクトは、湯沢南中学校のPTA活動で知り合った地域住民 5 人が今年 4 月に立ち上げ、二つの地区にまたがる「東鳥海山」を団体名に盛り込んだ。現在は約 20 人が所属。両地区にある資源を生かしながら、世代間交流の促進や地域の活性化を進めようと活動しており、ピザ作りもこの一環。

7 月 18 日には同校の家庭部員 18 人がピザを試作した。生徒が考案したパプリカやオクラ、ミニトマトなどの「夏野菜」、「キーマカレー」、「チーズとバジル」の 3 種類で、米粉で作った生地にそれぞれの具材をのせて焼き上げ、食べ比べた。曾根夕愛部長(3 年)は「地域の人と関わって調理するのは初めてで楽しかった。みんなで協力してアイデアを出して作ったので、ぜひ多くの人に食べてもらいたい」と話した。三関地区にはかつて採石場があり、今もなお多くの石材店が並ぶ。昔から培われてきた石材加工技術を生かそうと、ピザを焼く石窯も地元の石材店と新たに製作した。石窯の材料には、須川地区で採れた石も使用しているという。同プロジェクトで役員を務める佐藤寿和さん(47)は「学校の閉校などで昔はあった地域内での世代間交流が年々薄れてきている実感がある。地域住民とのつながりを深めながら、地元を盛り上げていきたい」と話す。夏祭りはきょう 3 日に同市下関の三関地区センター、17 日に同市相川の須川地区センターで開催する。ピザのメニューはそれぞれ 2 種類。3 日はキーマカレーと夏野菜を提供する。(館岡朋美) (令和6年8月3日(土)秋田魁新聞より一部抜粋)